

宇野港を会場にマルシェ（市場）イベントを開いているUNOICHI実行委員会が、日本港湾協会（東京）の2017年度企画賞を受けた。港湾と周辺の地域の振興に貢

献した個人や団体をたたえる賞。高校生ら地域の若者がスタッフとして参画し、人気イベントとして定着させたことが評価された。（正本和臣）



日本港湾協会企画賞の受賞報告に市役所を訪れたUNOICHI実行委員会のメンバーら

UNOICHI実行委

港湾協会企画賞を受賞

実行委は、宇野港も会場となった瀬戸内国際芸術祭2013の元スタッフらで結成。芸術祭期間以外も港周辺ににぎわいを呼ぼうと、「UNOICHI海が見える港のマルシェ」を14年7月から年に数回開いている。

瀬戸内沿岸各地の飲食、雑貨店などを露店として誘致。ミュージシャンのライブも企画。外国客船の寄港イベントなどを含め、これまで12回の来場者数は、今年4月に開いた特別企画「Voyage of Night」の1万4千人を最高に、計5万3千人に上っている。

玉野商業、玉野、光南の市内3高校の生徒や卒業生も実行委員、

ボランティアとして参加。地元食材を使ったおにぎりなどの商品開発している。実行委員長の小倉理



過去最多の1万4000人が詰め掛けたマルシェイベント「Voyage of Night」が4月16日

若者参画、マルシェ定着評価

史さん(43)＝田井＝と3高校の生徒6人が5月31日、市役所を訪れ受賞を報告。小倉さんが「高校生らに支えてもらっての受賞。これからもUNOICHIを通じ、宇野港の美しい景観を広く発信したい」と意欲を示した。黒田晋市長は「来場者が癒やしを感じられるイベントを続けてほしい」と応じた。

実行委員の玉野商業高校2年廣澤海音さん(16)は「大学で経済を学びたいと思っているので、どうすれば商品が売れるかなど、UNOICHIでの活動は自分の将来にとっても役立つ」と話していた。

今回のUNOICHIは7月17日午後4時～9時に開催予定。日本港湾協会企画賞は、宇野港の活性化に取り組む女性グループ「うの港13」が10年度に受賞している。